



笑って学んで考える 憲法集会

見せしめにされた国策への従属=自立には住民自治!

夕張市の財政再建を考えるシンポジウム

8月29日、自治労会館において「夕張市の財政再建を考えるシンポジウム」(北海道地方自治研究所主催)が開催され、自治体関係者や議員など約80人が参加しました。概要をお伝えします。

「見せしめにされた国策への従属 労働組合は連帯を！」

宮崎伸光法政大学教授が「当時問題視されたジャンプ方式(会計

夕張市の財政再建を考えるシンポジウム



が保証する最低水準の生活)の切り下げにもつながり、他自治体への波及効果も高い。

労働人口・中間層の人口流出により、高齢者が半数で活力不足。各労働組合は連帯して運動をつくるべき。貸し手責任を免れた金融機関と国で救済措置を。国策への従属、企業城下町のもろさ、克服するためには、内発的發展、個性、多様性が大切。

10年間の類例のない「緊縮財政の実験場」計画の全面改定を!

西村宣彦北海学園准教授は「過去に類例のない、緊縮財政の政策・社会の実験場。全国最低の住民サービス、最高の住民負担で市民の生活水準が低下。『文化・スポーツ施設、図書館、公園等はなくとも人は死なない』とナショナルミニマムから

歴史的背景・特殊事情は無視「膨大な情報」が渦巻く社会「自立戦略には住民自治!」厚谷司夕張市議会議長は「破綻して10年、再生方策に関する検討委員会報告がまとまれ、『今、抜本的な見直しが必要』という声が多い。破綻当時、観光への過大投資・不適正な経理などが大きく取り上げられたが、市の歴史的な背景や閉山後の炭鉱企業の資産買い取り等の特殊事情は、多くの国民に伝わって

「夕張・市役所・労働組合はけしからん」という「風」が吹かされ、風がやんだあとには、その経緯は気にも止められなくなり、当事者だけに大きな影響が残される。マスコミやインターネットで膨大な情報が渦巻く社会では『見出し』や『風』が一瞬にして世論を形成する。国内では今こうした事案が増えているのではないか。不寛容の時代の自立戦略は、住民自治に答えがあるように感じる」と話しました。

「自民党改憲案」を漫談で斬る!



これがアベさんの本音! 笑って学んで考えて

…憲法学習会のお知らせ…

日時：9月22日(木・敬老の日)
場所：岩見沢市民会館 2F音楽室
主催：「憲法守りいかす南空知共同センター」
内容：各地で引っ張りだこの小林康二さんによる「憲法漫談」。…アベ政権が、選挙でひた隠しにした「改憲草案」を、一緒に笑って学んで考えてみませんか…

弁護士の大川真郎さんは「小林康二さんの著書を思わず笑って読んでいるうちに、『憲法の心』が理解できる。この漫談の背景に、著者の深い学識、豊かな活動経験、鋭い洞察がある」と、各地で引っ張りだこの小林さんを紹介しています。

参議院選挙で多数の議席を得た安倍政権は、選挙中はまったく触れもしなかった「憲法改正」をしようとしています。

「安保関連法」(戦争法)は憲法9条に違反し、日本を戦争する国へ変えてしまう危険な法律です。11月には、南スーダンへ自衛隊員が派遣されますが、今度は自衛隊員が、殺し殺される状況にさらされることとなります。

集会への参加・問い合わせは「憲法守りいかす夕張共同センター」事務局 ☎090-2818-5183 熊谷さんへ。

雨の中 無名碑 法要開催

8月26日(金)に、末広墓地の一角にある「無名碑」の法要がありました。建交労夕張支部の前身である「全日自労・夕張支部」が、戦後長く主催してたものですが、現在は、建交労夕張支部がそれを引き継いでいるものです。全日自労の組合員

この日は、雨のため、急きよ室内での法要となりましたが、窓越しに、読経し、参加者14名でしめやかに無名碑法要が執り行われました。



くずさんの 夕張歴史散歩 (55)

会社手帳の「一心会」

これら炭鉱夫の全国的な結びつきの動きに、敏感に反応したのは他ならぬ炭鉱会社、北炭でした。はじめの頃は暴力団やならず者を集めたり警察権力を動かしたり暴力的に対処していましたが、坑夫たちの組織化に対し力だけでは対応は無理とみて、懐柔策に手を打ってきました。

一九一九年(大正8年)十一月、北炭は「一心会」という労使協調の組織を、他社にさきがけて結成します。

「この制度は、当時の険悪な社会思潮に鑑み、労使相互の意思疎通、連絡調整を図るため、従業員代表と会社側とが、就業面・生活面のいっさいを懇談裡に審議を行い、斯業(北炭の)の発展に寄与する・」と、北炭自身が七〇年史であけすけに語っています。

つまり「懇親談議」をもとに問題を解決するとして、たたかいを内部から分断・回避させる作戦です。



畠山 和也 「国会かけある記」
衆議院議員

畠山 和也

台風被害へ政府は支援を

道内各地の台風被害の調査にまわると、想像を超える驚くような実態ばかりでした。畑が全面的になくなって、線路が埋まるほどの土砂が流れている――。

1週間に3つの台風襲われ過去最高の雨量となり、大きな災害となりました。党道委員会は、私を本部長に、党道議団と森つねと道国政相談室長を副本部長とする災害対策本部を立ち上げました。私は十勝・日高・北見地方に足を運びました。

土砂崩れの直撃を受けた日高町の水産加工会社では、「従業員10人で泥をかきだした。4つある大型冷蔵庫のうち無事だったのは1つだけ」。常呂川の氾濫でタマネギ畑が全面流失した北見市端野の農家からは、「雪が降る前に農地改修できなければ、来年は営農できなくなる」。見渡す限り見えるのは、流木や土砂ばかりでした。

端野で亡くなられた男性の、お父さんにもお会いしました。胸が痛みました。「同じような被害が出ないように、政治でも力を尽くします」と話すことで、私も正直いっばいでした。

個別に省庁と連絡を取ったり、8月29日には紙智子・岩淵友の両参院議員と道議団とで、政府交渉をおこなうなかで要望を反映させました。さらに被害の把握を続け、政府へも二度三度と支援を求めます。再び台風・大雨が来ないとも限りませんので、ぜひ読者のみなさんもお気をつけください。